

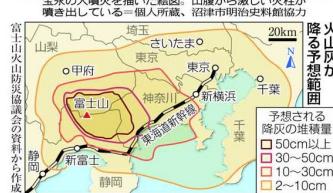
**備えよ** 3.11から

第57回 歴史は語る③—火を噴く靈峰

# 富士山 迫る「その時」



昨日三月十九日に東日本大震災が発生した直後、もう一つの危機が迫っていた。四日後の十五日、富山市の大雪の中も、静岡県東部でマグニチュード5.2の地震が発生。研究者は「過去には過去に地殻変動と連絡している」と述べた。噴火が起きている南海トラフ巨大地震が発生した時、静かで美しい雲峰が火を噴く可能性がある。  
（中村慎一郎、相模縦）



## 物流が断絶 発電所停止

## 1週間程度の備蓄必要

最後の爆発が江戸時 二つの地震が噴火の引 いる。

の後は約八十一百五  
年。記録に残る中  
四年はM級の元禄地  
は、最も長い富士山

文献で記録され始めた断続的に火山灰が噴きていらない部分も多い。以降では、ハリ十一世出し、百キロ以上離れた所に指摘する。

だ、鷺谷教授は「暗いところでは、分からぬ」と、

に積み重なった活火山。地層の研究から、日に噴火した。山腹から東日本大震災による火の恐れは低くなつた。山柱が高く噴き出し、火の恐れは低くなつた。

・6程度)が発生。約

マクドナルドの「マックコラ」を買おう。延びるブレーントラフ板」境界の南海トラフ 気象庁は今年九月

代の一七〇七年の「宝  
永の大噴火」だ。十月  
二十八日、綾河窯かう  
き金になつたと考  
れてゐる。

次回は19日掲載 地震と火災について考えます。

「備忘录」 2.11+心 脂膏中

備える！311から販売中  
本連載が「備える！」3・11から」のタイトルで、主な書店で販売しています。昨年5月の連載開始から今年6月まで、  
ジュアルでより読みやすくなるとめています。B5判、定価1600円（税込み）。問い合わせは中日新聞出版部=電052(291)1714-1。

(c) 中日新聞社 無断転載、複製、頒布は著作権法により禁止されています

約300年前に大噴火した富士山の宝永火口（右側）。山腹をぐるりと走る噴火跡が目に飛び込む。山頂からすぐ下側の山肌は赤く変色している。

「それは溶岩の流れた跡。鉄分が酸化して赤く変色したんです」。火山学者の鈴木さんが指さす。奈良時代に編まれた万葉集には「もゆる火を 雪もて消ちつちふる雪を 火もて消ちつ



## 本社機から上空ルポ

### 溶岩流の跡、鮮明に

# 山裾に「傷口」今も

「雪を火で消しつつ」と富士山を詠んだ歌が収められている。

平安時代初期に成立した「竹取物語」には、かぐや姫が月に帰った軽石は十五キロ離れた集落に思いを寄せた帝が、月に帰る姫から不死の薬を渡されるが、噴火が続く富士山頂の巨大なくぼみは、當時の奈良時代に編まれた万葉集には「もゆる火を 雪もて消ちつちふる雪を 火もて消ちつ

た。上空から駿河湾方面を見る

と、静岡県富士市の市街地が広がり、東名高速や新幹線が並行して走る。一帯は一万年前の噴火で溶岩に覆われた。（同じ規模の噴火が再び起きないとは、誰にも言えない）。鈴木さんが窓の外に広がる市街地を見つめ

ていたかが分かりますね」と鈴木さん。

雲の切れ間から、宝永噴火の火口跡が見えた。熱を持つ岩流が富士五湖の本栖湖のほとりまで到達した跡も見え

た。

山梨県側に向かうと、八六年の貞觀噴火のくぼみが見えた。火山灰を多く吐きだし

た宝永噴火に対し、貞觀噴火は大量の溶岩流出が特徴。溶

岩流が富士五湖の本栖湖のほとりまで到達した跡も見え

た。